

# お薬手帳を使うと どんなメリットがあるの？

先生教えて！

薬の情報を1冊にまとめることで  
安心・安全な薬の使用につながります。

まとめて1冊に



解説していただきました

大分大学医学部附属病院 (大分県)

薬剤部長

伊東弘樹先生

いとうひろき 1996年熊本大学薬学部卒業後、熊本第一病院などを経て大分医科大学医学部附属病院(現・大分大学医学部附属病院)に勤務。2014年より現職、17年に同院副院長を兼務。大分県病院薬剤師会副会長、大分県薬剤師会常務理事など。



教えて薬剤師さん！ 大人のためのおくすり教室

お薬手帳は患者さんの薬を管理する大切なツールですが、その役割を發揮するために大切なものが、情報を1冊にまとめることです。患者さんによっては、通っている病院ごとに異なる薬局を利用する人もいるため、お薬手帳を薬局ごとに使い分けている場合があります。実際、入院時にお薬手帳を確認すると複数冊持参される患者さんも少なくありません。しかし、それは薬の重複投与のチェックやの組み合わせによる副作用の防止といった、お薬手帳本来の役割が果たせなくなってしまうのです。

普段どんな薬をのんでいるかは患者さん本人だけでなく、診察する医師や薬の専門家である薬剤師がしっかりと把握していなければ、安全な薬の使用にはつながりません。特に高齢の患者さんは、複数の薬を服用しているケースも多いため、薬の管理には十分な注意が必要です。

お薬手帳は1冊にまとめ、また複数の薬局を利用するのではなく、同じ薬局で薬を管理してもら

えるよう「かかりつけ薬局」をもつようしましょう。

のみ合わせなどによる副作用は、病院で処方される薬だけでなく、市販の薬やサプリメントでも起きることがあります。市販薬を購入する際もそのお店にいる薬剤師や登録販売者にお薬手帳を見せて、普段の薬と一緒にのんでも問題ないかチェックしてもらおうと安心です。

## COLUMN

### 災害時も活躍するお薬手帳

お薬手帳の重要性が再認識される1つのきっかけになったのが東日本大震災です。医療機関が被災しカルテや薬歴などが確認できなくなった際も、お薬手帳によってその患者さんがどんな薬をのんでいるかが分かり、適切な医療や薬の提供につながりました。災害時には普段行く薬局が閉まっていたり、患者さんが遠方に避難したりすることもあるので、災害対策の1つとして外出時はお薬手帳の携帯を心がけましょう。



## 薬剤部の取り組み

### 薬剤師を派遣し専門性を発揮

大分県唯一の大学病院である同院には、県内の様々な地域から患者さんが訪れます。その中には遠方から時間をかけて来る人も多く、そのため1度目の治療は同院で受けても、それ以降は地元の病院で受けてほしいという人も少なくないそうです。ただ、その際に課題となるのが必ずしも地域に専門の薬剤師がいるわけではないということ。「例えば、がんの薬物療法が必要な患者さんの近くの病院に、がんの専門認定資格をもった薬剤師がないこともあるため、当院から薬剤師を派遣するなどして地域の支援を行っています」と伊東先生。大学病院として専門性を発揮しながら地域の医療を支えています。

大分県では医師会や薬剤師会が協力してお薬手帳の活用を推進。手帳に薬局名が記載されているとその薬局専用の手帳と勘違いされる可能性もあるため、あえて薬局名は記載していない。

